

令和2年度 瀬谷西高等学校 不祥事ゼロプログラム 検証結果

【評価基準】

- A 行動計画を完全に実施し、事故・不祥事防止に十分な成果があった。
- B 行動計画を実施し、事故・不祥事防止の成果があった。
- C 行動計画を実施したが、事故・不祥事防止に効果的でなかった。
- D 行動計画の実施が不十分であった。

<共通課題①>法令遵守意識の向上

目標	公務員として、県民の信頼を失うことのないよう、公務外非行の発生を未然に防止する。		推進担当：キャリア支援G
	行動計画	達成事項	反省点・課題
i	公務外非行に関する事故や不祥事、生徒及び保護者に対する不適切な言動の事例集を作成・配付し、事故・不祥事の未然防止を啓発する。	8月（パワーハラスメントの防止）、12月（不適切な言動の防止）の事故防止会議において、具体的な事例を紹介し、公務員としての自覚と危機管理の意識を啓発した。	教育公務員として高い倫理観と道徳観をもって、日常的に職員行動指針に基づいた意識の向上が高められるよう継続していく必要がある。
ii	通常の職員の服務についてだけでなく「職員行動指針」についても職員に周知徹底し、様々な事故・不祥事を未然に防ぐとともに、不祥事に対して適切な対応をとれるようにする。	事故防止会議において不祥事チェックリストを配付し、教育公務員としての高い倫理観と危機管理意識を啓発した。	職員行動指針や不祥事3か条を今一度心に刻み、使命感と責任感を持って業務にあたる。

<共通課題②>セクハラ、わいせつ行為の防止

目標	教職員の人権意識を高め、セクハラ・わいせつ行為を未然に防止する。		推進担当：生徒活動支援G及び総務・管理G
	行動計画	達成事項	反省点・課題
i	全職員にスクールセクハラ防止の啓発資料を配付し、セクハラ・わいせつ行為を未然に防止する。	11月に外部講師によるスクール・セクハラ防止に係る事故防止研修を実施した。	スクール・セクハラは組織での対応が必要な課題であり、よりスクール・セクハラの起こりにくい校内環境をつくっていく。
ii	スクールセクハラ自己チェックを実施し、スクールセクハラ防止の啓発を図る。	同上事故防止研修で自己点検表を配付し、自己チェックを実施した。	今後もより意識が高められるよう工夫した研修会を実施し、意識の向上に努める必要がある。
iii	全職員に職場内のハラスメント防止の啓発資料を配付し、職場内のハラスメントを未然に防止する。	事故防止会議で資料を配付し、パワハラ、セクハラやマタハラの定義及び事例を紹介した。また、理解度テストも実施できた。	全職員がハラスメントへの正しい知識を持ち、さらに良好な職場環境をつくっていくことが大切である。
iv	職場のハラスメントチェックを実施し、ハラスメント防止の啓発を図る。	事故防止会議で「STOP!ザ・スクール・セクハラ」を配付し、スクール・セクハラ理解度テストを実施した。	研修時間の関係もあり、理解度テストは各自が行った。周知、チェックの徹底が必要である。

<共通課題③>体罰の根絶

目標	体罰を未然に防止する。		推進担当：生活指導G
	行動計画	達成事項	反省点・課題
i	体罰の防止に関わる啓発資料を職員会議等で配付し、意識啓発を図る。また、さまざまな場面を想定したケーススタディなども取り入れる。	事故防止会議において全職員対象に体罰に関する資料を配付し、事例を紹介しながら未然防止に努めた。日頃から体罰については意識を持つよう周知した。	職員一人一人が日頃から意識を持って行動し、機会あるごとに振り返りをする場を増やす必要がある。
ii	生徒指導等の際には、複数の職員であたるなど、適切な対応を行う。	問題行動発生時の対応は複数の職員で対応でき、適切な対応ができた。	一度に多くの問題行動が発生した場合の対応策を検討しなければならない。

<共通課題④>成績処理及び通知票や進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止

目標	成績処理及び通知票や調査書等の発行に係るミス無くす。		推進担当：学事・学習G及びキャリア支援G
	行動計画	達成事項	反省点・課題
i	学期末の成績処理に係る点検項目を明確に示し、誤入力や点検漏れの徹底を図る。また、日常の担当者個人段階でのミスなくすよう注意喚起する。	成績処理の項目や日程を明確にすることとそれぞれの段階における注意喚起を徹底した。	日程などに一部誤記載があったので、作成に際しての校正に留意したい。
ii	新成績処理支援システムに関するマニュアル兼用のチェック表を十分に活用し、円滑な運用に向けた研修会を開催する。	成績処理支援システムの円滑な運用を推進した。	成績処理支援システムへの講師の先生方のアクセスが困難な場合があり、ソフト的な改善をお願いした。
iii	進学・就職・推薦それぞれの調査書点検に関するマニュアル兼用のチェック表を活用し、担当者対象の説明会等で十分に周知徹底する。	調査書点検のマニュアル兼チェック表を活用することで、調査書等の点検・発行を進めた。	様々な段階での点検の徹底と複数の目での確認を励行したい。

<共通課題⑤>個人情報等管理、情報セキュリティ対策

目標	情報セキュリティ対策を充実し、個人情報の流出を未然に防止する。		推進担当：総務・管理G及び学事・学習G
	行動計画	達成事項	反省点・課題
i	情報セキュリティに関わる規則等を職員会議等で全体に周知し、個人情報等の管理の徹底を図る。	年度当初の事故防止会議において、基本的な情報セキュリティに関する事項について確認し、個人情報の管理及び情報発信についての徹底を行った。	情報セキュリティに係る個人の技量を高め、全員で確認し合うことが大切である。
ii	校務用端末等を整理し、台帳および管理簿等の確認を行う。	情報セキュリティ監査に向けて、各種管理台帳の確認・整備を行い、端末の管理実態を把握した。	使用していない端末の登録抹消が不十分であった。
iii	校内ネットワーク運用規定等を点検し、校内ネットワーク使用における情報セキュリティ対策の充実を図る。	情報セキュリティ監査に向けて、ネットワーク運用要領を見直し、校内の実情に合わせて修正した。	重要情報管理システムの利用が不十分であった。
iv	学校ウェブサイトにおける個人情報・著作権・肖像権に十分配慮して、常に最新の情報になるよう更新に努める。	適切に更新を行った。	学校広報についてのデータや資料を、各グループが積極的に発信できるような体制づくりが課題である。

<共通課題⑥>交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止、交通法規の遵守

目標	交通事故の防止と酒酔い・酒気帯び運転を防止する。		推進担当：生活指導G	
行動計画		達成事項	反省点・課題	評価
i	自家用車通勤者や運転免許保持者に資料を工夫した「チェックリスト」を配付し、注意喚起する。	11月の事故防止会議において資料を配付し、意識啓発を図った。	チェックリストを各自で行い、点検項目を確認した。「飲酒運転は許さない」という、職場の雰囲気を醸成することも重要である。	A
ii	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止に関する啓発資料、チェックシート等を作成し、職員会議等で配付し、事故の未然防止に向けた意識啓発を図る。	事故防止会議にて酒酔い運転・酒気帯び運転の資料を配付し事例を中心に紹介しながら意識啓発を行った。	今後も交通事故ゼロを目指し、一人ひとりの行動意識を持たせるための取組がより一層大切である。	A

<共通課題⑦>業務執行体制

目標	業務の執行体制の不備による事故を未然に防止する。		推進担当：総務・管理G	
行動計画		達成事項	反省点・課題	評価
i	引き続き、各グループ業務の見直しと次年度に向けた業務の再編整備を進める。	年間行事予定を考えるにあたり、各グループで実施しない行事を挙げ、業務のスリム化を図った。	生徒、職員の減少に伴い、さらに業務を見直す必要がある。	B
ii	執務環境の整理整頓及び美化清掃を推進し、業務の円滑な執行体制を整備する。	廃棄すべき文書や使用されなくなる棚・ロッカー等を整理した。また、計画的な粗大ごみ回収を実施した。	2年後の統合に向け、各グループで文書や物品の整理担当を決める。また職員室内を業務が円滑に執行できるよう整備する。	A
iii	不祥事ゼロプログラムに係る具体的な取組及び実施状況を継続的にとりまとめる。	不祥事ゼロプログラム及び事故防止会議について周知するとともに、年度末には検証しその成果を全職員で確認した。	今後も引き続き、継続的に事故・不祥事防止のための取り組みや振り返りを行うことが重要である。	A

<共通課題⑧>会計事務等の適正執行

目標	現金管理を含む私費会計の適正な処理を行う。		推進担当：事務及び管理職	
行動計画		達成事項	反省点・課題	評価
i	今年度についても部活動顧問総会で「予算の執行方法について」を配布、また「私費会計の適正な執行について」を職員会議で配付して私費会計事務全般の適切な運用について周知する。	「私費会計の適正な執行について」に基づいて、執行にあたっては複数の目で点検を行い、適正に実施した。	引き続き、私費会計の事務について周知し、チェックを徹底する必要がある。	A
ii	財務事務調査の結果を踏まえた事故防止研修会を開催し、問題点はすぐに改善する。	財務事務調査の結果を踏まえて事故防止研修を行い、気を付けるべきところを周知・徹底し、全職員で確認した。	継続的に、私費会計事務について周知し、チェックを徹底する必要がある。	A

<独自課題①>各種伺いや認定の届出

目標	各種伺いや届出等の漏れや誤申請を未然に防止する。		推進担当：事務及び管理職	
行動計画		達成事項	反省点・課題	評価
i	各種届出等に漏れがないよう、適宜点検及び指導を行う。	起案様式を徹底し、より起案内容を明確に把握できるようにし、複数の目で点検を行った。	起案の作成の仕方については今後も日常的に指導していく必要がある。	A

<独自課題②>徹底した情報の共有化

目標	「報・連・相」による情報の共有化の徹底を図り、組織的に学校運営に取り組み、事故・不祥事を未然に防ぐ。		推進担当：管理職及び企画会議	
行動計画		達成事項	反省点・課題	評価
i	日々起こりうる事故防止に向け、年間を通じて「今週（または本日）の一言」として全職員で確認する。	朝の打ち合わせを活用し、事故防止に関する情報を全職員で確認した。	事故防止に対する意識は高まっているが、油断が禁物であり今後も意識の高揚に努める必要がある。	A
ii	管理職への連絡体制のさらなる確立と、情報の共有化の徹底を図り、いかなる案件の処理についても管理職及び関係グループ（学年）リーダーからの指示のもと、組織的に対応する。	職員の報告体制は概ねできている。文書化された報告による情報の共有化も進んできた。	「報・連・相」に基づく、より一層の情報の共有化の徹底を図る必要がある。	B

<独自課題③>電話対応・来客（保護者）対応

目標	県民対応の基本として、事故を未然に防ぐ。		推進担当：管理職	
行動計画		達成事項	反省点・課題	評価
i	対応マニュアルを作り全職員で確認する。	電話機の脇に置いた対応マニュアルに従って、職員全体が丁寧で迅速な対応を心掛け、適切に対応した。	全職員に周知されるよう今後も継続して取り組む必要がある。	A

○ 令和2年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和3年度に取り組むべき課題

(学校長意見)

不祥事防止については、起こってからでは遅い。未然に防ぐという決意で取り組んできた。

○朝の打合せ等で、不祥事防止に関する注意喚起や不祥事防止に関する通知の徹底や意識啓発を行ってきた。

○事故・不祥事防止会議では管理職からの指導助言だけでなく、総括教諭や教諭からも呼びかけ、同僚性を意識した取組とすることができた。

○11月に外部講師によるスクール・セクハラ防止に係る事故防止研修を実施し、一人ひとりが質問に答え、質の高い議論を行うことができた。大変有意義であった。来年度は、より効果の高い研修を目指して、協議と演習の取入れも検討する。

※ 不祥事防止は、繰り返し指導することが不可欠である。職員を孤立させないよう、管理職や周囲の教員からの声掛けを行うとともに、「自分ごと化」できるような実践的な研修を次年度も実施していきたい。